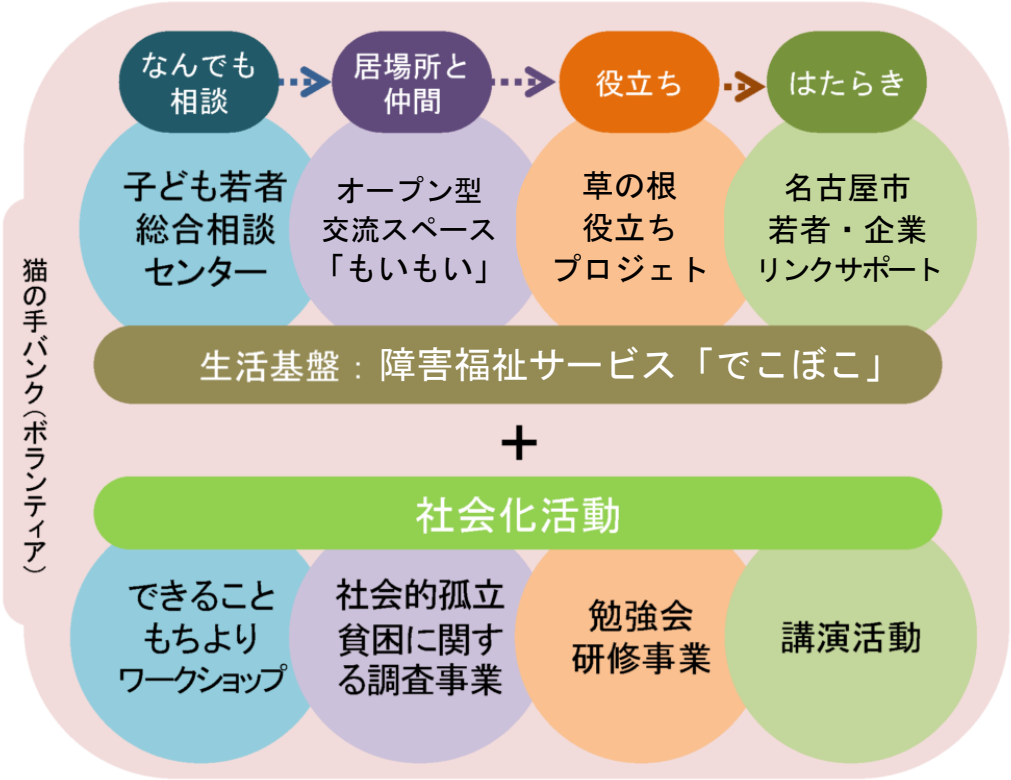
令和４年度 事業報告　令和４年５月～令和５年４月

『誰もがありのままを認められる暮らしの中で、ひとりひとりの
小さな一歩を大切にしあえるやさしい社会にしたい』

という理念のもと、制度や支援の手が届かずに社会的孤立や貧困に苦しんでいる方の支援を「仕方がない」とあきらめるのではなく、すべての方が安心して居られる場所・活躍できる場所を見出せる社会となることを目指し、次頁以降１～６の事業を行った。

＜草の根ささえあいプロジェクトの事業＞



INDEX

１　調査・研究事業 2
２　相談・支援事業 5
３　生活支援事業 13
４　就労支援事業 15
５　地域コミュニティ事業・ネットワーク創出事業..... 18
６　普及・社会活動事業..... 20

１　調査･研究事業

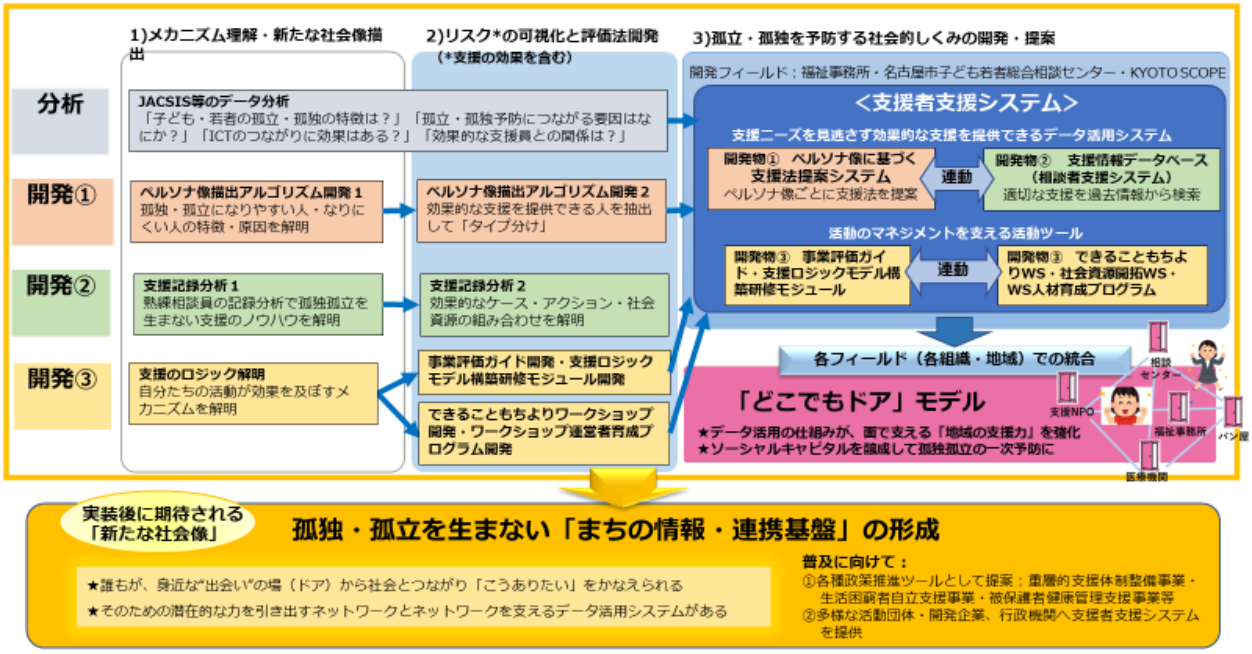
ｉ）「SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム(社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築)」研究開発プロジェクト
「地域とつくる『どこでもドア』型ハイブリッド・ケアネットワーク」: RISTEX

昨年に引き続き、上記 RISTEX の調査の協力委員として渡辺、フィールド団体として草の根ささえあいプロジェクトが参画。
研究実施者：堀田聰子氏（慶應義塾大学大学院・教授)、西田佳史氏（東京工業大学大学院・教授）と共に、以下の研究を実施した。

Ａ：支援事例の検索システム構築 テスト実施
草の根ささえあいプロジェクトのロジックモデルにそった事例の洗い出し（成功事例／失敗事例）を実施。そのデータを支援データベース化し、支援に行き詰まりを抱える若手支援者・支援経験の浅い支援者が、ヒントや足がかりを得るための検索システム構築のテスト実施。

Ｂ：生活保護世帯で育つ子どもへのアンケート調査におけるクラスタ分析
RISTEX 京都チームが実践する上記クラスタ分析に対し、現場から見えるクラスタ群のペルソナ分析と、それに対する支援の打ち手を検討（永井・榊原・渡辺）

Ｃ：「どこでもドアモデル」のための、できることもちよりワークショップ全国展開
社会資源開発ワークショップと、できることもちよりワークショップを融合した、新バージョンのできることもちよりワークショップを実施(7/18)
その後、できることもちよりワークショップを全国展開するための、研究会を２回開催（10/3、12/19）



ⅱ）「ごきげんな暮らしを可能にする地域の条件の見える化」事業

昨年度実施した法人 10 周年イベントにて登壇くださった湯浅誠氏が、草の根ささえあいプロジェクトの取り組みに注目。氏が現在力を注いでいる「子ども食堂」を中心とした地域の温かなコミュニティに、どんな機能が必要か？の研究に渡辺が現場の立場から参画することとなった。研究会は来年度から実装をはじめ、2025 年度まで続く予定。

達成目標は「みんながごきげんに暮らすために、あたたかなコミュニティを地域に点在させ、インフラにしていく」こと。様々な立場の研究メンバーから意見やアイディアが飛び出し、エキサイティングな議論となった。

最終的には、『２階建て構想（2 階が支援の場、1 階が交流の場）と住民の主体的参加』が必要という結論に。

◇２階建て構想は：できることもちよりワークショップ
◇住民の主体的参加は：草の根ささえあいプロジェクト作成
「ごきげんな地域に必要な機能 100 のリスト（別添）」が、来年度以降の実装のメインになる予定。

◆研究会メンバー

氏名（アイウエオ順、敬称略）	所属
内田貴之（※１）	埼玉県
小柴徳明	黒部市社会福祉協議会
野﨑伸一	厚労省
原田正樹	日本福祉大学
広石拓司	（株）エンパブリック
宮國康弘	日本福祉大学
渡辺ゆりか	（一社）草の根ささえあいプロジェクト
オブザーバー	
根岸真智子、松田幸大	三菱商事（株）
山口正行	内閣官房こども家庭庁準備室
山崎史郎	内閣官房

◆研究会実施

回	期日	発表者（敬称略）	おもな内容
第 1 回	7 月 19 日	湯浅：＜居場所＞構想	研究会の基本構想と獲得目標
第 2 回	9 月 15 日	メンバー発表 渡辺、小柴	メンバーの思考や活動の共有
第 3 回	10 月 20 日	メンバー発表 宮國、広石	同上
第 4 回	11 月 28 日	メンバー発表 内田、原田、野崎	同上
第 5 回	1 月 23 日	まとめの議論	報告書ドラフト(1)
第 6 回	2 月 3 日	まとめの議論②	報告書ドラフト(2)

図１：交流目的の居場所と支援目的の居場所（スライド提供：むすびえ）

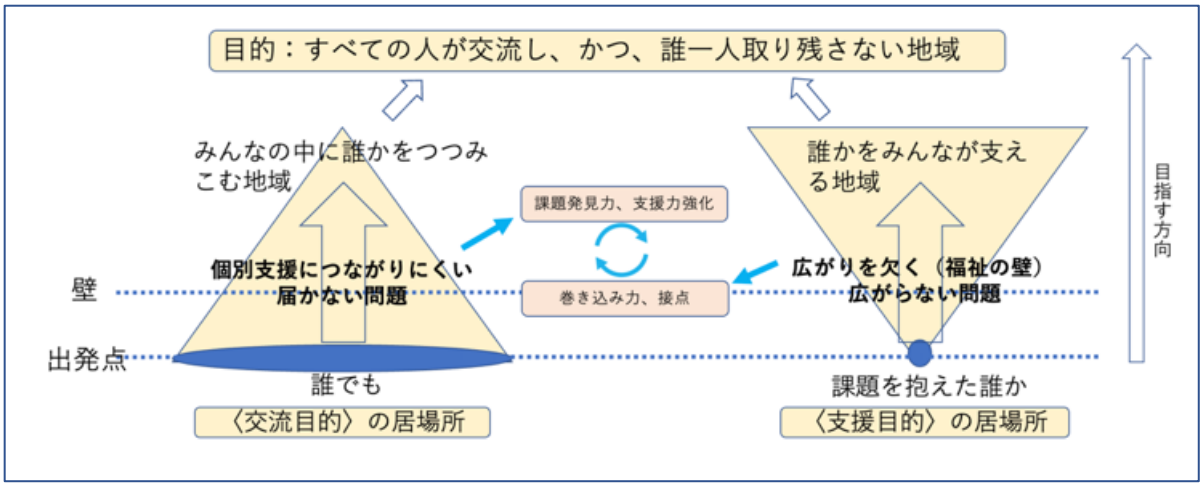
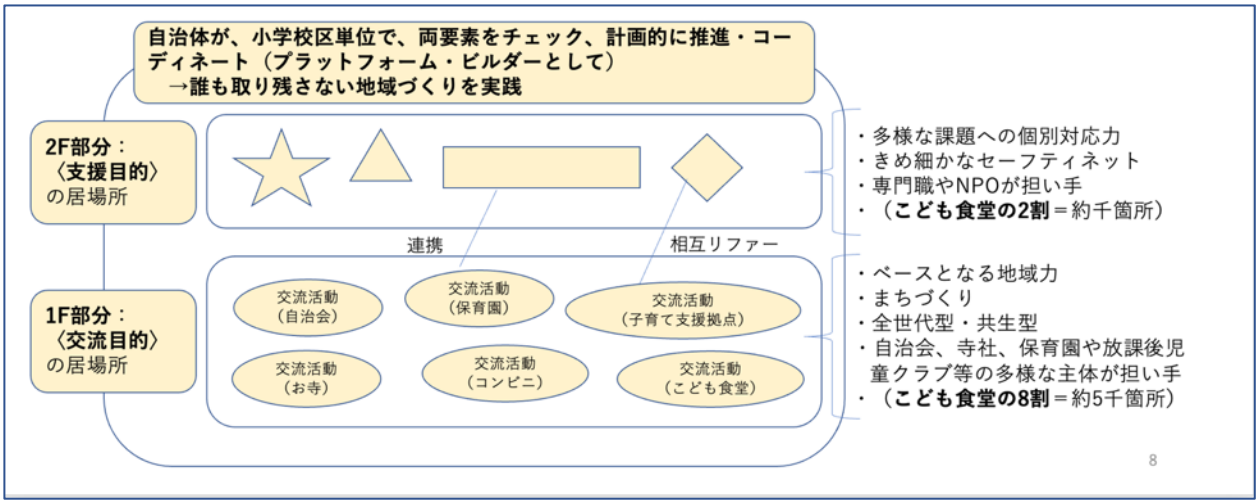


図２：地域の居場所２階建て構想（スライド提供：むすびえ）



ⅲ）WAIS-Ⅳ研究会

WAIS-ⅢからⅣに改定され、実施機関（病院、大学）などでもⅣが基本となってきたため、Ⅳの特徴を知るための自主学習会を開催。さらにチームに分かれて深く研究することで、今までは評価テスト・フィードバック共に外部に委託するのみであったWAISの実施やフィードバックが、自団体で行えるようにと研究をスタートした。

◆WAIS-Ⅳ実施チーム：被験者に実際にテストを実施し、評価シートの作成とフィードバックの資料作成、実際のフィードバックを行なう。

◆検討チーム　　：既存の評価やフィードバック資料から、相談者を分析・再アセスメントし、その内容を発表するチーム

２ 相談･支援事業

◆名古屋市子ども・若者総合相談センター（名古屋市受託事業）：平成 25 年 6 月 25 日～

ｉ）センター業務

０歳～概ね３９歳までの、名古屋市在住の方の相談に応じるワンストップセンターとしてあらゆる相談に応じる。問題解決のために「来所相談」にとどまらず、アウトリーチ、同行支援、ボランティアの活用、就労支援、支援機関の開拓連携（ケース会議）などの＜機能＞を駆使し、困りごとを抱える本人やご家族によりそうセンターとして、運営実施を行った。

令和4年度 名古屋市子ども･若者総合相談センター実績

◆個別相談
- 相談者実数：1,001人
- 延べ相談件数：8,805件
- 訪問支援（アウトリーチ）：2,807件（526人）
- ケース会議：902回

◆連携機関数：341機関（延べ機関数 5,695件）

◆ 交流スペース
- 利用登録者数：1,237人
- のべ利用者数：6,462件

◆LINE相談
- 相談者実数：737人
- 延べ相談件数：2,671件

◆ボランティア（よりそいサポーター）稼働数：1,136件
※打ち合わせ・研修・振り返りを含む

＜センター運営方針／5 つの機能＞

①子ども・若者を一つの解決方法に当てはめず、オーダーメイドの支援をする

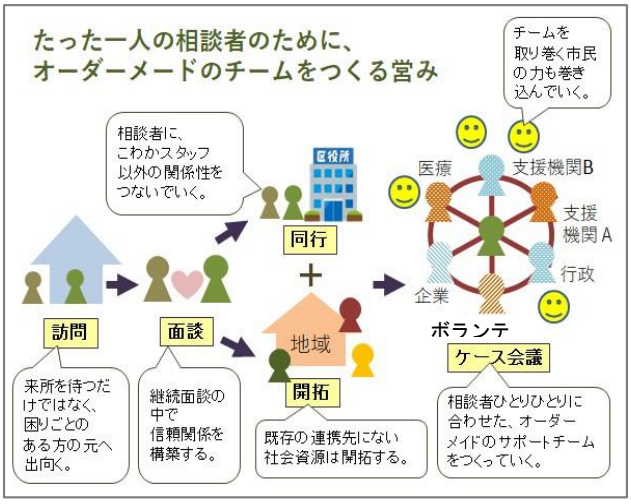
②相談者さんの生活圏まで私たちが出向いて行くアウトリーチ機能

③関係性をつなぐ同行機能

④官民のあらゆる多様な方々と連携しながら、最終的には自立できるようになるまで見届けるネットワーク機能

⑤本人をとりまく環境にアプローチする家族支援機能

○「地域」と「子ども・若者総合相談センター」が育ちあう関係性の構築

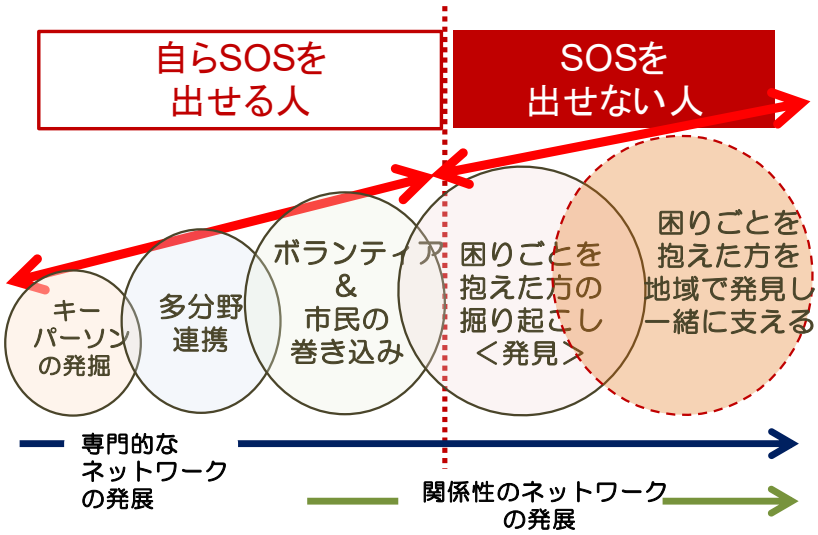


令和元年度より名古屋市における子ども・若者指定支援機関に位置づけられ、相談窓口の増設（金山ブランチの新設）や支援機能の拡充（オープン型交流スペース・SNS 相談）に伴い、それまで相談に結びつかなかった若者にも出会うことができるようになった。

また、子ども食堂や学習サポートやプレーパークなど地域の居場所を巻き込んでいった結果、専門家のネットワークだけでなく、関係性のネットワークも発展してきた。センターの周知も進んで、様々な支援機関や学校や地域の居場所からのつなぎが増え、今や相談者の 6 割弱が他の機関や団体からの紹介という状態になっているが、その分、困難なケースが山積し、1 回あたりの支援にかかる時間も長時間に及ぶことが増えた。

ひとりひとり地道にケースを積み重ねて、困り事を抱えたご本人を支えられるような地域に発展させていきたいと考えている。

名古屋市子ども･若者総合相談センターと地域の課題



また、各方面からの視察等も多くあり、以下の対応を行なった

2022 年 5 月　長崎県子ども・若者総合相談センター
6 月　仙台市子供未来局
8 月　日本福祉大学教育・心理学部心理学科実習生
9 月　名古屋市児童相談所実習生
10 月　CAPNA
11 月　京都ユースワーカー協会
11 月　草津市子ども未来部
12 月　西尾市（令和４年度「子ども・若者支援地域協議会」及び「子ども・若者総合相談センター」整備・機能向上事業）ヒアリング
12 月　浜松市（　〃　）
2023 年 1 月　芳龍福祉会
2 月　東京都大田区地域力推進部青少年担当係

2022 年 11 月 3 日(祝)ちくさ子ども食堂イベント出店

ⅱ）オープン型交流スペース“もいもい”　　期間：令和元年 10 月 30 日～

名古屋市子ども・若者総合相談センター金山ブランチに設置されている交流スペース。
対象者：市内在住の 15 歳～概ね 39 歳までの方*
開所時間：日・祝を除く毎日、14 時～21 時
*市内在住の学生の紹介による、市外在住同級生はフレンド会員として利用可能。

・登録利用者数：261 人（延べ登録者 1,239 人）　延べ利用者数：6,462 人（R5 年 3 月末現在）
・ビジター利用：150 人（市外在住、年齢対象外、メンバー登録を検討中の方など）

恒例となっている、ゲストスピーカーを招き、それぞれの職業や経験から、若者に“ありのままでいいんだ”と感じていただく、「〇〇なひとの話を聞く会」。本年度は転職・海外放浪・国際協力・節約のコツなどの“経験”から語っていただくゲストから、特許分野に関すること、コワーキングスペース設立者、お笑い芸人、スポーツインストラクター、プロスポーツマネージャーなど、職業に特化したゲストスピーカーなども招いた。

その他、お金に関する知識を持っていただくためのイベントのほか、利用者の“勉強を教えることができる”というニーズと、具体的に不得意な科目を克服したい利用者をマッチングさせた、「もいもい勉強会」も新たにスタートした。

◆居場スペ！（居場所・スペース協働会議）　　令和 4 年 11 月 15 日～

名古屋市内の若者向けの居場所を開設している事業者に声をかけ、居場スペ！を組織した。オープン型交流スペースもいもいを運営する中で、滞留する利用者やもいもいのみでは対応が難しい利用者などを、地域全体で支える仕組みづくりが必要と考え、以下の呼びかけ団体に声をかけ、居場スペ！を組織した。令和 4 年度は令和 4 年 11 月 15 日（火）、令和 5 年 1 月 17 日（火）、3 月 9 日（木）、4 月 18 日（火）と計 4 回実施し、令和 5 年度も運営されている。主に、それぞれの団体が取り組むことや問題意識の共有のほか、各団体のスタッフの顔の見える関係づくりなどを目的とし、地域全体でさまざまな若者を“誰ひとり取り残さず”支える仕組みを目指している。

《居場スペ！呼びかけ団体》

・青少年交流プラザ ユースクエア
　〈運営〉名古屋ユースクエア共同事業体：NIK（ニック）
・ナゴ女＊つながーる/名古屋市スポーツ市民局
　〈運営〉公益財団法人 名古屋 YWCA
・北部ステップアップルームみら ie
　〈運営〉一般社団法人 愛知 PFS 協会
・南部ステップアップルームミライデア
　〈運営〉一般社団法人 日本ダイバーシティ推進協会
・両角 達平 氏/日本福祉大学 社会福祉学部 講師
・パルス/港まちづくり協議会、LRC
・meguru house /NPO 法人 ひだまりの丘
・名古屋市子ども・若者総合相談センターオープン型交流スペース(もいもい)

iii）LINE 相談　　令和元年 10 月 31 日～

ライン相談の概要

名古屋市内在住の 15 歳～概ね 39 歳までの方とその保護者を対象として、（月）～（土）の 17：30～21：30 の間実施。（相談受付は 21：00 までに変更）

令和 5 年 4 月からは、名古屋市内の高校に在学している高校生も対象に加えた。

また、ゴールデンウィークと夏休みという長期休み明け前後には、時間を 1 時間延長して 17：00～22：00 の間相談を受け付け、不安定になりがちな時期の多くの若者に寄り添った。

若者にとってなじみのある、LINE 相談には以下の有効性が見えてきている。
①言葉で表現できない、漠然とした相談のタイミングの早期化。
②顔が見えない､会わなくていいからこそ、思い切って話せる安心感がある。
③相談を受ける側のメリットとして、LINE は顔も見えない､声も聞えないことから、画面のこちら側のチームワークで知恵を出し合える。
④個別の支援が必要な若者を、SNS 上の関わりにとどめることなく、来所相談や居場所への来所を促すなど、顔の見える相談につなげることができる。

＜若者の指向性に合わせた機能の強化＞

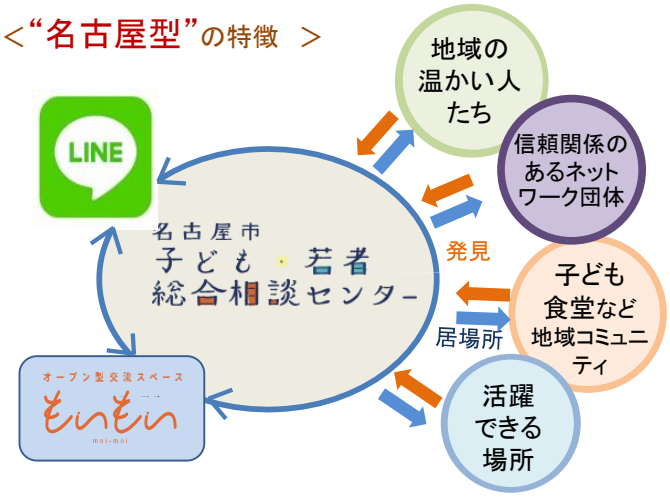
オープン型交流スペース
もいもい
本人率100%

SNS相談「ライン相談」
本人率82%

	オープン型交流スペース	SNS相談「ライン相談」
発見機能	・元気なふりのできる場所 ・世間話からスタートする相談 ・ふらりと立ち寄れる場所 など	・「電話」「対面」ストレスからの解放 ・漠然とした悩みの段階で相談OK ・毎日（繰り返し）来られる など
経験機能	・同じ目的を持つ他者との交流 ・他者に相談することの経験 ・文化的な経験　など	・愚痴を聞く「家族」の代替え機能 ・「悩みを言葉にすること」の経験 ・話すことで問題が整理される経験

潜在的な困りごとを抱えた本人からの相談を直接キャッチ！

オープン型交流スペースと LINE 相談という若者の指向性に合わせた機能の強化により困り事を抱えた若者本人からの相談を、直接キャッチすることができるようになったと言える。



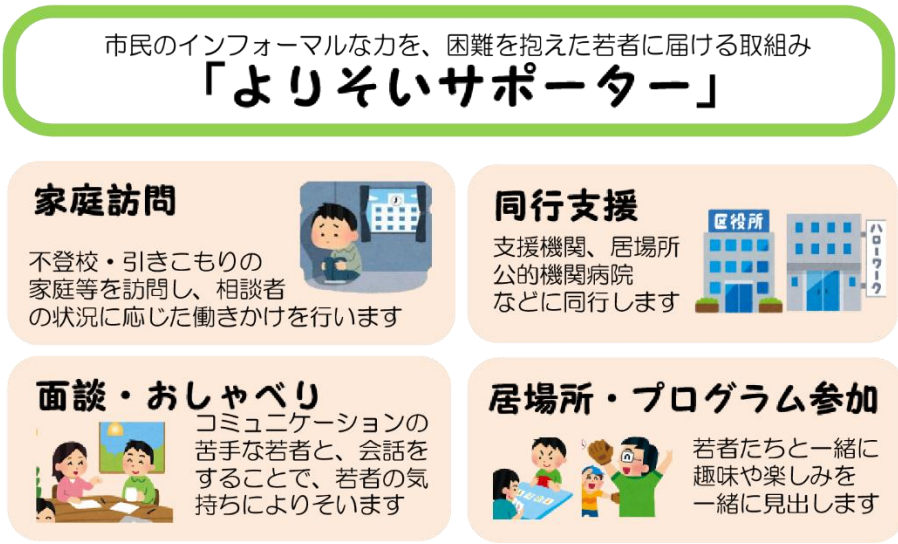
そして、この 2 つの機能が加わったことで、名古屋市の特徴的な取り組みになっている。
LINE 相談とオープン型交流スペースという相談のハードルの低いところから、センターの相談につなげる機能があること。加えて、LINE 相談が外部の専門業者への委託ではなくセンター内部で運営していることにより、センターの相談につながってからでも、LINE 相談やオープン型交流スペースの利用ができ、センター本体と三つ巴のチームで、子ども若者を応援できること。これは他都市にはないもので『名古屋型』と言える。

更には子ども食堂やプレーパークなどの、地域コミュニティの場とつながることにより、そこを拠り所としている、相談機関にはつながりにくい方達と、少しずつ出会えてきている。そして逆に、既にセンターにつながっている若者たちがボランティアなどとして活躍できる役立ちの場を提供して頂くなど、支援する側、される側という関係を越えて、包容力のある地域の方々の温かい見守りを受けられる居場所にもなっている事例が次々と生まれている。

ⅳ）子ども・若者総合相談センターボランティア『よりそいサポーター』

期間：平成 27 年 9 月～

子ども・若者の支援に取り組んだ経験のあるかたや、資格を有した方の他、若者支援に熱意・関心のある地域市民の方がたにボランティアとして、子ども・若者の支援を行っていただく。



※親密な他者として、よりそい応援してくれる人の存在※

＜令和 4 年度実績＞
◇ボランティア登録人数：230 人
◇稼働件数：1,136 件
◇稼動内容：
・引きこもり、不登校の方の家庭訪問・学習支援・居場所同行・支援機関同行
・センターでの傾聴（おしゃべり）・創作活動・遊び（スポーツ・ゲーム・囲碁居場所での支援）など

平成 27 年 4 月～平成 29 年 7 月に行った「名古屋市子ども・若者総合相談センターサテライト事業（名古屋市受託事業）」（名称「ちくさ 815」）で培った経験を活かして、居場所に行けない人のための、少人数での居場所プログラム「こわかランド」も継続して実施し、そこでもよりそいサポーターは活躍している。（テニスランド、スタディランド、クラフトランド、イラストランド、女子会、アニメ会など）

新たに令和 3 年度より、おしゃべり男子の会やギターランドなどが新設され、相談者お一人お一人によりそい、必要とされた居場所プログラムを柔軟に考え、実施した。

またよりそいサポーター向けの研修を兼ねた交流会も 6 回実施し、事例検討を中心とした交流会から実際の支援に繋がるなどのうごきも見られた。

専門家としてではなく、同じ地域で共に暮らす大人として、
一緒に悩み・考え・行動しています。

ｖ）連絡会等への参加

①熱田区子どもの居場所づくり関係者連絡会

ｉ）日時：令和４年10月25日（火）10：00～12：00
　　場所：熱田区在宅サービスセンター研修室

ⅱ）日時：令和５年　３月　８日(水) 10:00～12:00
　　場所：熱田区在宅サービスセンター研修室

②自殺対策ネットワーク会議

日時：令和５年１月27日（金）10：00～12：00
場所：名古屋市役所東庁舎５階会議室

③生活困窮者自立支援連絡会議

日時：令和５年２月14日（火）14：00～16：00
場所：名古屋市役所西庁舎12階会議室

ⅵ）内部研修

法人職員に対して以下の研修を行った。これらの研修は特に記載がない場合、名古屋市子ども・若者総合相談センター職員に限定せず、全ての法人職員を対象とした。

①新人研修

対象：新規入職者
日時・期間：入職後約２週間、および担当を持ってからのフォローアップ、ロープレ等
講師：法人職員（一部外部講師）
内容：法人理念、各事業の理念から、制度や接遇など

②LINE相談研修

対象：LINE相談員
日時・期間：2022年５月14日、７月２日、９月３日、12月24日、2023年２月25日
講師：肥後道子氏（W&H）
内容：LINE相談での基本的な対応姿勢、困難事例に対する対応方法など

③親対応研修

対象：名古屋市子ども・若者総合相談センター職員
日時・期間：2022年５月24日、６月17日、７月29日、８月19日
講師：肥後道子氏（W&H）、渡辺ゆりか
内容：本人に会えず親対応のみで長期化するケースに対する対応方法
　　（ペーシング、構造化、提案など）

④発達障害研修

日時・期間：2022年12月３日～４日
講師：山口　久美氏（SNOW DREAM）
内容：発達障害の基本的な理解とケース事例検討

⑤個人情報保護・虐待防止研修
日時・期間：2022 年 7 月 13 日
講師：榎本雄太
内容：個人情報保護に関する理解

⑥PCAGIP（ピカジップ）研修
対象；名古屋市子ども・若者総合相談センター　本部職員
日時・期間：2022 年 9 月 29 日
講師：成田有子氏（株式会社ユナイト）
内容：PCAGIP（Person Centered Approach Group Incident Process）について、
学びと実践について

⑦意思決定支援研修
日時・期間：2023 年 2 月 1 日
講師：又村あおい氏（全国手をつなぐ育成会連合会常務理事兼事務局長）
内容：意思決定支援が困難な人についての理解

⑧WAIS-Ⅳ研修
日時・期間：2023 年 3 月 14 日、3 月 24 日
講師：渡辺ゆりか
内容：心理検査 WAIS-Ⅳの特徴と実施方法と評価方法

ⅶ）連携・実践

劇団うりんこ様と連携して、コミュニケーションワークショップを開催した。言葉を使わなくてもコミュニケーションが成立する体験を、相談者・参加職員ともに共有した。

日時：2023 年 3 月 24 日、4 月 19 日
場所：名古屋市子ども・若者総合相談センター金山ブランチ
オープン型交流スペースもいもい　セミナールーム
対象者：センター相談者、もいもい利用者延べ 10 名

３ 生活支援事業

ｉ）でこぼこ（障害福祉サービス）

期間：平成 25 年 7 月～令和 5 年 2 月

主として名古屋市内で、障害者総合支援法に基づく、行動援護、名古屋市の移動支援事業のサービスを提供した。

人は違って当たり前、みんなが同じ社会で生きる生活者であって「できること、できないことのでこぼこを持った人の集まるところ」。そんな想いが『でこぼこ』という名前に込められている。

☆コロナ禍で感染症拡大を予防するため通所先が閉所になりやむを得ず自宅で過ごすことや余暇を控えることで外出する機会が減り、我慢を強いられている利用者さんが多くみられた。短い時間でも外での活動を希望される方や社会生活を送るうえで必要な外出には、感染症対策を徹底してサービスの提供をした。

☆管理者の交代や退職者もあり、段階的に新体制へと移行し、規模を縮小。

利用者さんには安心して他事業所へ移れるように引き継ぎの期間を長くとり関係機関や他事業所と連携を密にして対応し、2 月 17 日の閉業を迎えた。

（令和 5 年 2 月 17 日時点での利用者数：行動援護 10 名、移動支援 6 名）

＜でこぼこの理念＞
全ての人が生きることってすてきだなと感じられるために…

１）**弱さも強さも**含めた全ての人の**可能性**を信じます
２）それぞれの人がふみだす**小さな一歩**をお手伝いします
３）利用者もでこぼこもかかわりあいのなかで
学び、育ちあいます。

＜千種区自立支援連絡協議会の参加＞

名古屋市内の各区において自立支援連絡協議会が運営されている。でこぼこの事務所があった千種区の自立支援連絡協議会の構成員として参加し、地域の課題等に取り組んだ。

ⅱ）猫の手バンク

期間：平成 25 年 5 月～

既存制度やどんな施策にも当てはまらない方々にボランティアが家庭訪問し、生活課題を解決する。当団体の「名古屋市子ども・若者総合相談センター」や「でこぼこ」、「名古屋市若者・企業リンクサポート」等の、支援事業ではカバーしきれない困りごとを抱えた方の相談に関して、猫の手バンクが稼働し対応した。

猫の手バンクのメニュー

通訳（同行・仲介）

◎病院同行、主治医訪問
◎家族との仲介
◎支援機関の同行と仲介　など

訪問・見守り

◎定期的な家庭訪問
◎引きこもりの方への訪問
◎継続的なカウンセリング

申請手続き

◎生活保護の申請手続き
◎滞納金（電気・ガス・電話）の支払手続き　など

身の回りのサポート

◎部屋の片づけ（ごみ屋敷等）
◎住まいの営繕 ◎買い物同行
◎食糧支援 ◎入退院手伝い　など

遊び・まなび

◎趣味や興味を一緒にする
◎お茶や食事を一緒にする
◎低所得家庭への学習支援
など

コミュニティへの参加

◎就労支援
◎社会資源の開拓
ボランティア先・居場所・企業・学習の機会　など

4　就労支援事業

◆名古屋市若者・企業リンクサポート事業（名古屋市受託事業）

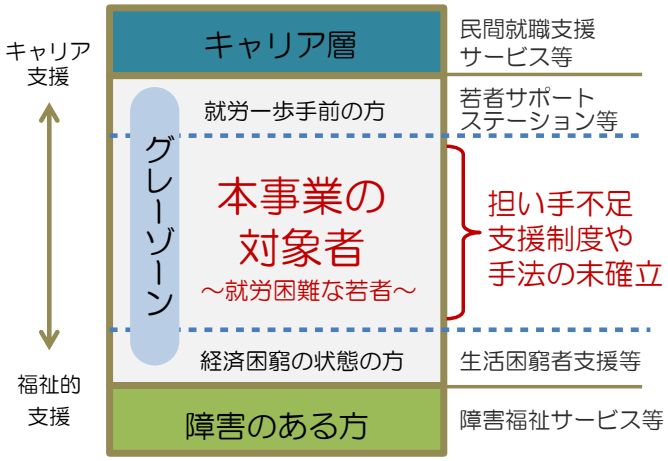
期間：令和元年 10 月 30 日～

若者と企業がお互いを大切と感じ、そこから「優しさ」が広がっていく社会を目指し実施。

『働くことが難しい』若者と、若手を『採用＆戦力化できず悩む企業』との仲介に立ち、双方の悩みを同時に解決する就労支援を行うことで、

「全ての若者が、社会にとって『なくてはならない人』となれる優しい社会」を目指す事業。

右図のように、今までの支援構造の中で空白になっていた就労困難な若者のゾーンにアプローチする新しい試みであり、試行錯誤の中、“就労困難な若者と企業が、潜在的な可能性を引き出し合う姿”を日常にしたいという思いでスタートを切った。



大方針：「仕事に人を合わせる」から『人に仕事を合わせる』へ

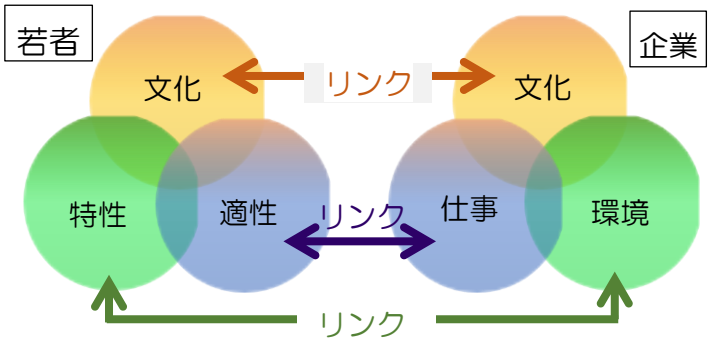
訓練等により仕事に若者を適応させていくのではなく、ひとり一人の持ち味や能力に＜仕事を合わせていく＞ことを、一番のポイントとしている。

方針１．若者と企業の相互成長を生み出す ＜３つのリンク＞ の実現

【リンク①】企業と若者のお互いの文化性（価値観）が近く、尊重しあうことができる

【リンク②】若者の適性を活かせる仕事が企業にあり、若者に提供ができる

【リンク③】若者の特性に合わせた環境調整が、企業の強みを生かした方法で実施できる



方針２．アウトリーチを軸にした、アセスメントと実支援の同時進行

若者・企業双方の丁寧なアセスメントを何より大切にすることを 2 つめの方針とした。

アセスメントの実施は、面談室での相談初期に留まらない。若者がまだ就労手前の段階の「連携支援」から、実際の「就労準備支援」、そして企業に出向いての「戦力化支援」まで、家庭訪問・同行・企業訪問と、アウトリーチを積極的に行い、継続的なアセスメントをしていく。

＜リンクサポートの特徴と実績＞

1）徹底した個別支援

障害福祉サービスや他の支援機関の就労支援・プログラムには該当しないが、生きづらさや働きづらさ、経験の不足等を抱えた若者を対象に、企業見学・実習を経ながら環境を合わせていく、「環境支援型就労支援」を実施。一人ひとりの希望や特性や経験に合せ、面談の場所や方法もアレンジ。その方に働き方に合う企業を一から開拓し、見学→実習→就労定着へとつなげていく。

◆実績：令和４年４月～令和５年３月（12ヶ月）

相談者数		162 人
支援件数	本人面談	2,617 件
	企業見学	202 件
就労件数		65 人

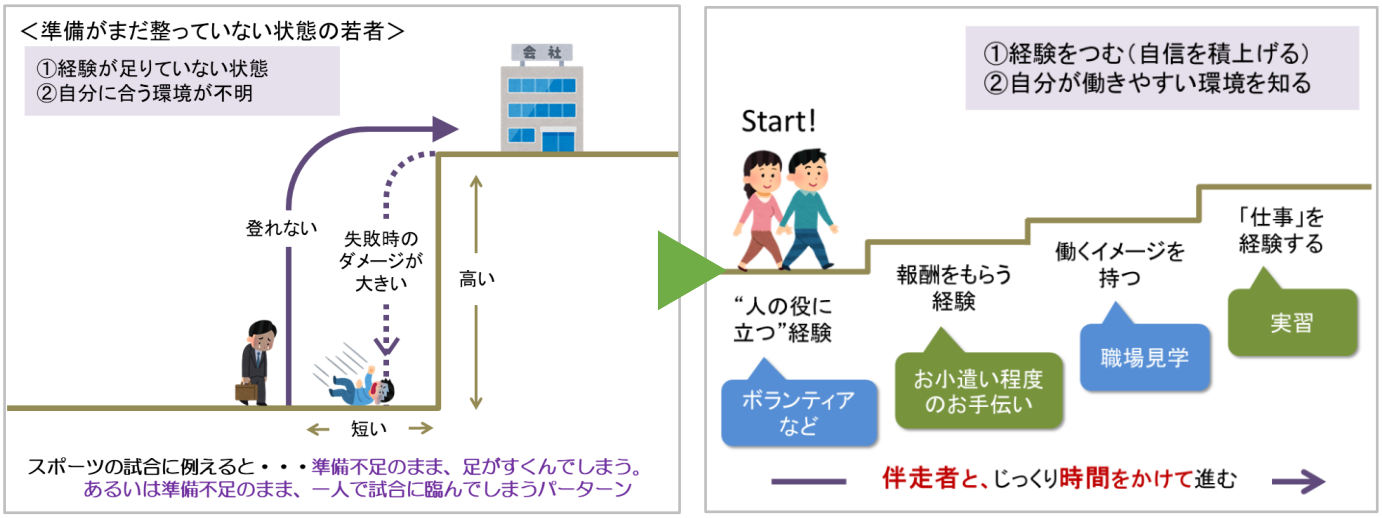
◆就労先（例）

・海洋研究所での研究補助　・シェアオフィス受付　・学童保育所での指導員
・飲食店スタッフ　・文字校正　・子どもの療育セラピスト　・学習支援スタッフ
・広告デザイン　・写真スタジオ撮影補助　・医療事務　・社労士事務所　・電報の作成
・食品工場での製造　・機械工場での製造　・車両整備士・ガソリンスタンド
・スーパー品出し・デイサービスの調理　・建物管理（宿直）　他多数

→本人のアセスメントから見いだした、一人一人に合わせた多様な職種での就労が特長

2）経験からのサポート

一方で、個別の就労支援の流れだけでは、仕事に就くことの不安や迷いから抜け出せない若者も多いことが見えてきたため、働くことや（＝人の役に立つこと）のイメージが持てるような、経験のサポートからの就労支援の切り口も確立した。



また、その際の「経験」には３段階の入り口を設け、若者にとって高いハードルを越える経験ではなく、なだらかに「働くこと」にシフトしてけるよう、コーディネートした。

〇３つの入り口

低
↑
難易度
↓
高

入り口１：◆ぼちぼちチャレンジ：リンクサポート周りのちょっとした手伝いを支援員と一緒にボランティアで手伝う。

入り口２：◆草の根チャレンジ：草の根ささえあいプロジェクトが発注する、報酬の発生する仕事にチャレンジ。支援員の見守りはあるが、仕事は一人で実施する。

入り口３：◆お仕事チャレンジ：リンクサポートとつながりのある企業で、報酬を頂き簡単な仕事を任せてもらう。単発の仕事だが、その後チャレンジした企業で採用につながることもある。

＜法人会との協働事業の実施＞

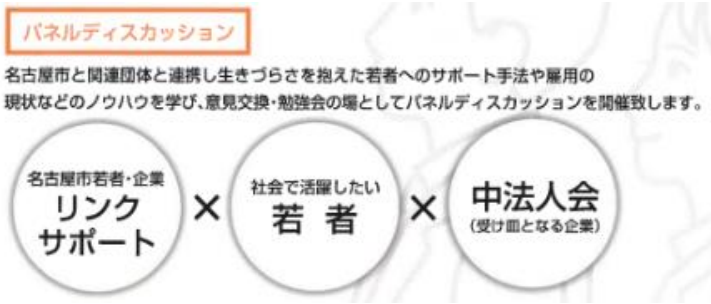
上記お仕事チャレンジの受け皿として、多くの機会を名古屋中法人会さまから頂き、お仕事チャレンジからの雇用にもつながった。企業にとっても、若手人材不足の中、はたくことに躊躇する若者の理解と、受入れの練習、さらには受け入れることによる、既存の職員の成長にも繋がったと言う声を頂き、中法人会の中でも大きな価値があると評価され、更なる参画企業の拡大を目指していくこととなった。

また、取り組みの報告会を、中法人会・名古屋市・リンクサポートの協同で開催。実際にお仕事チャレンジに参加した若者もパネルディスカッションで登壇し、今まで仕事に踏み出せなかった理由や気持ち、リンクサポートとの出会い、お仕事チャレンジの意義について発言してくださった。

◆「若者から学ぶ企業成長セミナー」

日時：2022 年 12 月 13 日（火）14 時～15 時 45 分

場所：中区役所ホール



パネルディスカッションの様子

５　地域コミュニティ事業・ネットワーク創出事業

ｉ）できることもちよりワークショップ

重複した困難を抱えた相談者の事例を参加者全員で共有し、それに対してひとりひとりの「できること」を書き出して、みんなで共有する。「１人で支えられること、１０人で支えられること、１００人で支えられること」の差を知ることにより、多分野連携の可能性や有効性を体験するワークショップの普及実施を行っている。

令和４年度は、各自治体や厚生労働省研修の一環などで複数回の実施となった。

＜草の根ささえあいプロジェクト自主開催＞
できることもちよりワークショップ【地域のつながり発掘編】
日程：2022 年 7 月 18 日(祝)13 時 30 分～17 時
場所：名古屋国際センター別棟ホール

＜外部からの依頼により開催＞
①南山大学：「地域開発と人間関係」　講義～草の根ささえあいプロジェクトについて
日程：2022 年 6 月 20 日(月)13 時 35 分～16 時 45 分
場所：南山大学
参加者：南山大学学生

②内閣府アウトリーチ（訪問支援）研修
日程：2022 年 9 月 14 日（水）　東京オリンピックセンター
場所：東京オリンピックセンター
参加者：子ども若者に関わる支援者

③滋賀県東近江市：社会福祉法人わたむきの里福祉会
わたむきの里福祉会主催勉強会
日程：2022 年 10 月 28 日(金) 13 時 00 分～16 時 00 分

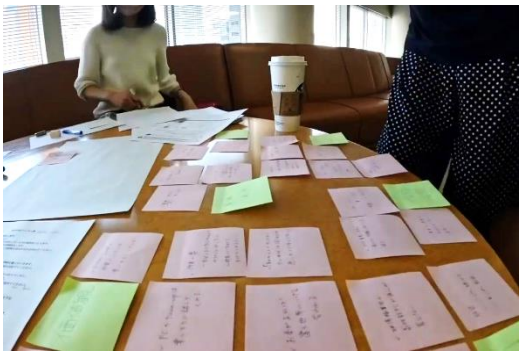
場所：わたむきの里福祉会所有古民家
参加者：企業社長・社協職員・社会福祉法人職員などの勉強会参加者

④愛知県長久手市：長久手市役所・NPO 法人ながいく
長久手市地域福祉計画策定プログラム
日程：2022 年 11 月 13 日(日) 13 時 30 分～17 時 00 分
場所：福祉の家　集会場
参加者：行政機関、民間 NPO、地域住民など

⑤三重県名張市：名張市地域包括支援センター
厚生労働省　社会的保障　モデル事業
日程：2023 年 3 月 20 日(月) 13 時 30 分～16 時 30 分
場所：名張市役所 大会議室
参加者：地域住民及びステイホームダイアリープログラム参加者

＜全国展開への取り組み＞

ｉ）できることもちよりワークショップ地域コーディネーター養成研修会
日程：2023 年 4 月 23 日(日)10 時～18 時
　　4 月 24 日(月)9 時 30 分～16 時
場所：名古屋国際センター5 階第一会議室



ⅱ）RISTEX との協働による、普及と新たな開発のための研究会
全国各地から、ファシリテーター、研究者、現場支援者がオンラインにて集結し、以下の議題を検討した。
第 1 回：2022 年 10 月 3 日（月）
論点：① できることもちよりワークショップはどのように社会に貢献していくべきか？
② 開催ニーズ＞できもち指導者の現状をどう乗り越えるか？
③ こども版できることもちよりワークショップの開発

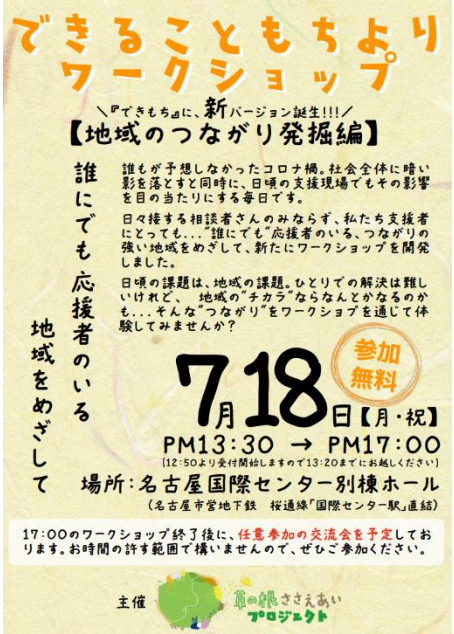
第 2 回：2022 年 12 月
できもち実践者の報告会：名張市、東近江市、長久手市、京都市、名古屋市

6　普及・社会活動事業

ｉ）イベント開催

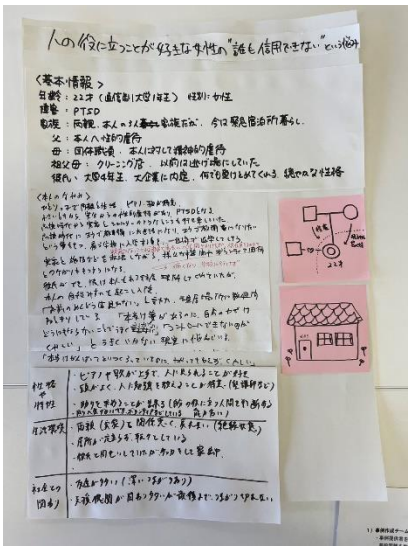
◆できることもちよりワークショップ
【地域のつながり発掘編】」の開催（P. 18）

「地域の社会資源を自ら開拓できる人を増やす」をテーマに、新たに改訂を試みた、New！できることもちよりワークショップのお披露目。前説を困難ケースを多く担当する岩本が担当。会場に想いを伝えたのちに、メインファシリテーター初挑戦の和田がファシリテータを務めました。会場中がサポートフルな空気につつまれた、ステキな時間になりました。

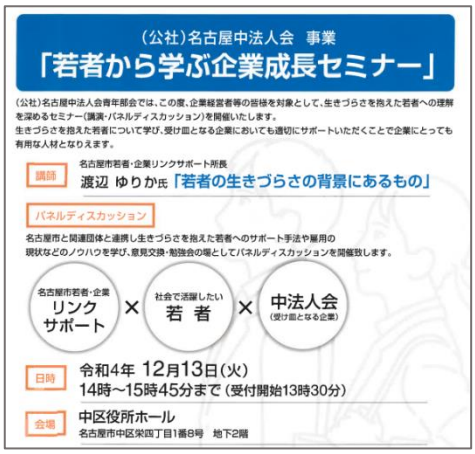


◆できることもちよりワークショップ
地域コーディネーター養成研修会（P. 19）
日程：2023 年 4 月 23 日(日)10 時～18 時
　　4 月 24 日(月)9 時 30 分～16 時
場所：名古屋国際センター5 階第一会議室
講師：起業支援ネット　鈴木直也氏　渡辺ゆりか

できることもちよりワークショップに高い関心を持つ、多様な立場の方々が参加くださいました。WS を主催する地域のキーパーソンと地域課題を見極め、開催の目的を明確にしつつ、温かい場作りをリード出来るコーディネーターの育成を行いました。



◆中法人会共催イベント
「若者から学ぶ企業成長セミナー」（P. 17）
中法人会に受け皿の中心となっていただき実施している「お仕事チャレンジ」の取り組み報告のイベントを開催。パネルディスカッションでは、３人の若者が登壇くださり、お仕事チャレンジにとどまらず、若者の生きづらさの背景にある事柄や、リンクサポートとの出会い、見学や実習、お仕事チャレンジの意義について、それぞれの語り口で、ステキに語ってくださった。
〇コーディネーター：起業支援ネット　久野美奈子氏



ⅱ）国・地方自治体等より講師・研修等の依頼

◆渡辺講演・講師

厚生労働省

・生活困窮者自立支援制度人材養成研修（就労）講師
日時：2022 年 7 月 11 日（月）：収録

・重層的支援体制構築推進人材養成研修 参加型支援実施事業者向け研修
日時：2023 年 2 月 13 日（月）：オンライン

・厚生労働省社会・援護局事業「重層的支援体制構築推進人材養成研修・広報啓発事業」検討のための、基礎 WG 委員
第 1 回：2022 年 6 月 28 日（火）
第 2 回：2022 年 8 月 16 日（火）
第 3 回：2022 年 10 月 25 日（火）
第 4 回：2022 年 12 月 26 日（月）
第 5 回：2023 年 3 月 2 日（木）

内閣府

・内閣府アウトリーチ（訪問支援）研修
日時：2022 年 9 月 14 日（水）　東京オリンピックセンター

その他講演等

・日本福祉大学　“日本伴走型支援協会×日本福祉大学”伴走型支援基礎講座講師
日時：2022 年 5 月 19 日（木）オンライン

・日本福祉大学 日本福祉大学ヒューマンケア論講師
日時：2022 年 6 月 6 日（月）　場所：日本福祉大学

・国分寺市子ども若者地域協議会　研修講師
日時：2022 年 11 月 18 日（金）オンライン

・特定非営利活動法人どりぃむスイッチ
退所児童等アフターケア事業所カモミール　カモミールサポーター研修
日時：2023 年 3 月 10 日（金）オンライン

・第 16 回提携社会福祉法人サミット「政策動向勉強会」シンポジスト
日程：2023 年 2 月 19（日）　場所：名古屋ガーデンパレス

・日本地域福祉学会　東海北陸ブロックフォーラム　　2023/1/29
日程：2023 年 1 月 29 日（日）　場所：日本福祉大学

・名張市「できることもちよりワークショップ」事前練習会
日程：2023 年 3 月 20 日（月）　場所：名張市役所

・「ごきげんな暮らし見える化」調査プロジェクト研究会メンバー
日程：第 1 回研究会：2022 年 7 月 19 日（火）
第 2 回研究会：2022 年 9 月 15 日（木）
第 3 回研究会：2022 年 10 月 20 日（木）
第 4 回研究会：2022 年 11 月 28 日（月）
第 5 回研究会：2023 年 1 月 23 日（月）
第 6 回研究会：2023 年 2 月 3 日（金）

・日本自殺総合対策学会理事会：2022 年度も引き続き就任

◆永井講演・登壇
・東海自治体学校　「地域で支える子どもの貧困」
日時：2022 年 5 月 15 日(日)13 時～16 時　　場所：労働会館東館

・港区障害者基幹相談支援センター研修会
～名古屋市子ども・若者総合相談センターについて～
日時：2022 年 7 月 5 日(火)10:30～12:00　　場所：港区障害者基幹相談支援センター

・学習サポート巡回相談員研修　～名古屋市子ども・若者総合相談センターについて～
日時：2022 年 8 月 7 日(日)9:30～11:30　　場所：名古屋都市センター会議室

・西区サポート代表者会議　～名古屋市子ども・若者総合相談センターについて～
日時：2022 年 9 月 16 日(金)14:00～16:00　場所：西区役所会議室

・愛知県立高校保健主事研修会
「不登校の生徒やその保護者に対する声掛けや、心の理解について」
～名古屋市子ども・若者総合相談センターの取り組みから見えるもの～
日時：2022 年 10 月 5 日(水)14:00～16:00　場所：ウィルあいちセミナールーム

・少年補導委員会合同研修会　～明日を生き悩む子どもたちに必要な支援、居場所とは
日時：2022 年 11 月 23 日　シンポジストとして登壇　場所：中区役所ホール
（中日新聞に掲載されました）

・官民連携した少年支援活動開始式＠オアシス 21 ドルフィンズポート
日時：2023 年 2 月 22 日(水)19：15～　　場所：オアシス 21 ドルフィンズポート
（NHK のニュースで放送されました）

・中区なかっこねっと子育て支援者向け研修会
～名古屋市子ども・若者総合相談センターについて～
日時：2023 年 3 月 20 日(月)14：00～15：00　場所：中区役所 6 階会議室

◆榎本登壇

・「不登校と学びを考えるシンポジウム」登壇

主催：不登校・学びネットワーク東海

日時：2022 年 12 月 4 日(日)13：30～16：30　場所：椙山女学園大学星丘キャンパス

◆取材関係

・オープン型交流スペースもいもいが、名古屋市公式 note にて 5/9(月)に、
『若者の「したい」をかなえる場所“もいもい”』として紹介されました。

・オープン型交流スペースもいもいが、中京テレビの名古屋市市政情報番
「林修のナゴヤかるた」にて 5/15(日)に紹介されました。

・名古屋市若者・企業リンクサポートの取り組みが、中日新聞に紹介されました。

11 教育☆ 2023年(令和5年)2月8日(水曜日) 中日新聞

学ぶ

就職活動 吃音などに悩む学生

孤立させない 支援模索

人手不足とされる中でも、就職活動は学生にとって大きな関門だ。コミュニケーションが取りづらい、新しい環境が苦手といったつまずき要因を抱える学生は孤立しがちで、自分に合った企業にたどり着くのがより難しい。そうした学生に寄り添って支援している名古屋経済大キャリアセンターで取材すると、就活の仕組み自体の問題も見えてきた。（日下部弘太）

「今までは吃音を企業に伝えずにやってきたけど、伝える場合と伝えない場合を両方やるのはどうですか」

「そっちでやってみたいです」

昨年十二月下旬、愛知県犬山市の名経大キャリアセンター。職員の大野好美さんが、四年の男子学生と面談していた。学生は吃音があり、就活に苦戦。気持ちがなえた時期もあったが、定期的な面談を通して「もう一回やってみようという感じになった」と笑顔を見せた。

大野さんはセンターのキャリアコンサルタントで唯一の常勤職員。多い時は一日七、八人の学生と面談し、就活のあらゆる困り事に対応している。「エントリーシートに書ける成功体験、ないです」と話す学生は多いが、よく聞くと見つかる。この男子学生は演劇に挑戦し、オンライン留学もしていた。

ただ、「意欲的に活動している学生でも就職先が決まらないこと」。疑問に感じるのは、新卒一括採用など日本独特の就活のあり方。職種よりも会社を重く見る「就社」の考えが根強い上、「大きくは一般枠か障害者枠の二者択一。中間が見えない」。障害に当てはまらなければ、個別の事情は配慮してもらいにくいのが現状。吃音もそんな特性の一つだ。

九年前からセンターで働く大野さんには、近年、学生同士の関係性が希薄化している実感もある。就活でも支え合えず、悩みを一人で抱えがち。働き始めた当初、面談は一日一～二人だったが、今では手帳が面談予定で埋まっている。

自分に合った職場で長く働けることが大事だとして本人の気持ちを大切に支援を進めているが、親が「壁」になってしまうことも。「親御さんの中には大手・安定へのこだわりが根強いケースも多い。就職イコールゴールではない、と知ってほしい」

こうした課題を受け、名経大では二〇二三年度、新たにハローワークの職員を招き、インターンシップ（就業体験）前の二年生、保護者らにそれぞれ講演してもらうことにした。特に、うまくいかなかった場合の対処法や相談先の情報提供に力を入れるつもりだ。

「頼れる場所、サポートする人がいることを伝え、学生が失望感を持つ前に何とかしたい」と大野さん。より良い方法を模索しながら、個々に合わせた支援を続けていく。

学生㊙と面談する大野さん＝愛知県犬山市の名古屋経済大キャリアセンターで

大学担当者 採用制度の課題 指摘も

本人の特性と企業 丁寧なマッチング大切

不安やつまずきを抱える学生が自分に合う就職先を見つける鍵の一つは、丁寧なマッチングにありそうだ。

「不慣れな環境への不安が強いタイプ」と話す名古屋市の女性(二)は学生時代、大学の就職支援部門には頼らず一人で就活を進めた。「自分を生かせる」とは思わずに入った最初の勤務先は上司の叱責がつらく、うつ病に。三年近く療養した。

再就職では市の事業「名古屋市若者・企業リンクサポート」を利用した。スタッフが本人の特性を把握した上で、合う企業を一緒に探し、見学にも同行する。

病歴を明かして就活し、二〇二一年春に木製品製造販売の「アルコム」（愛知県東郷町）に入社。昨夏には正社員になった。

経営責任者の大蔵力せさん(㊙)は「何でも挑戦してくれる。いないと困ります」。女性も「前向きに仕事に取り組めている」と話した。

リンクサポートの代表、渡辺ゆりかさん(㊙)は本人の特性に合った企業選びの重要性を強調。「大学のキャリアセンターと支援機関が早めに連携し、一部役割分担することで、学生が挫折するケースを減らせるのでは」と話した。

中日新聞の経済ニュースサイト「中日ＢＩＺナビ」編集部は27、28の両日、名古屋市千種区の吹上ホールで開かれる「ジモト就職応援フェア」（中日新聞社共催）で、エントリーシートの書き方講座を催す。無料。ＢＩＺナビを活用し、採用担当者に伝わりやすい志望動機を書くこつを解説する。詳しくはＱＲコードから。